

しながわすまいるネット (東京都品川区)

〔概要〕

品川区内で活動する様々な分野の団体、サークル等の情報を集め、活動の紹介、メンバー募集やイベントの案内などを自ら発信、検索を行う場を提供することで、区民活動の活性化を図ることを目的に、「しながわすまいるネット（区民活動情報サイト）」を開設。

〔コラム〕

従来、区からのボランティア募集の情報や区が主催するイベント・講座案内については「ボランティア・ナビ」というサイトで区が更新・発信をしていたが、しながわすまいるネットは、管理IDを発行することで、登録団体にも更新の権限を付与し、団体が自ら情報の発信ができるようにした。町会・自治会、NPO法人、ボランティア団体、商店街、学校、社会貢献活動を行っている企業など幅広い分野の団体が現在448団体登録し、そのうち253の団体がIDを取得している。(平成25年9月末現在)

このサイトでは各団体は簡易なホームページ（マイページ）を持つことができ、自分達の活動情報をタイムリーに発信することができる。また、区民はこのサイトから情報を取得することができる。そして、区内の様々な場所で活動をしている団体の情報を一箇所に集約し、このサイトを中心に区民・活動団体・行政・その他関連機関がネットワーク化されることをめざしている。

運営は公募により決定した5団体が運営委員会を結成し、区との協働で実施している。団体はいずれも高い水準のIT技術をもち、日々の入力情報の確認および承認、週2回4時間の入力サポート相談・サイトの操作講習会を年に6回実施している。

月に一度の運営会議を開催しアクセス件数の増加（現在月平均1万件）にむけた検討や講習会の内容をより充実させるための対策やサイト利用者・閲覧者がわかりやすい内容にするため積極的な意見が交換されている。

今後の課題としては、登録した後の情報更新が少ない団体へのフォローや、各町会・自治会での積極的な活用に向けた取り組み、庁舎内での関連各課を通じた区民へのPR方法を検討し、より活発な住民活動への支援をしていくことである。

〔制作費(内公的な補助額)〕

¥2,557,000



しながわすまいるネット (<http://shinagawa-smile.net/>)

〔問い合わせ先〕

品川区地域振興事業部地域活動課協働・ふれあいサポート係
直通：03-5742-6605

花なび
 (京都フラワーツーリズム推進協議会)
<http://flowertourism.net/>

〔概要〕

観光タクシードライバーや個人がおすすめる京都の四季折々の花をデジタルカメラなどで撮影し、それぞれのWEB上にアップされた最新の観光コンテンツを集め、撮影時刻順に公開。同時に「ハイアットリージェンシー京都」の1Fロビーの大型ハイビジョンディスプレイ、京都信用金庫嵯峨支店、城南宮、大映通り商店街などの「電子ポスター」によりリアルタイムで配信。

〔コラム〕

花なびでは一京の四季の花の美しさを満喫していただき、また同時に地域の素晴らしい観光の魅力も味わっていただきたいーとの思いから外国人観光客を含めた多くの方々に、京都の四季おりおりの花の開花状況や地域の観光の魅力などをリアルタイムに情報提供・案内を行い、観光誘客の促進と地域の振興を図っています。

これまでに季節の花、約10,000件(平成21年1月～平成25年12月)の情報発信を行い、京阪神の主要な32のホテル客室やiPhoneなどで約2万人が観賞しています。

花ナビのシステムはタクシー会社や個人、NPOなどからの個別情報を集約し広く情報発信してゆくプラットフォームとして機能しており、iPhoneアプリではGPS検索機能を使って自分がいる周辺の“おすすめる花”、イベント、お店などの情報を知ることが出来るとともに、各情報場所までの経路を表示できるようになっており、初めて京都を訪れた方でも迷わずに目的地まで行くことができます。

また、市内の見ごろの花を一番よくわかっているタクシー運転手にとって、情報発信とともに観光客へのサービスにもつながり、やりがいを実現してゆく場としても活用されています。

(問い合わせ先)

京都フラワーツーリズム 高木治夫
 TEL:090-1133-1358 e-mail:haruo.takagi@gmail.com

iPhoneアプリ「花なび」による道案内



Web ルートガイドは観光クラウドとして地域で共同利用。現在、県内30団体の観光サイトで利用されています。また、当社と青森県観光連盟様や各県内自治体様との協働により、県内の豊富な観光情報を民間で二次利用できるオープンデータとして活用。県内のさまざまな観光サイト上でWeb ルートガイドを提供し、広く県内の周遊ルート計画ができる情報支援態勢を整えました。

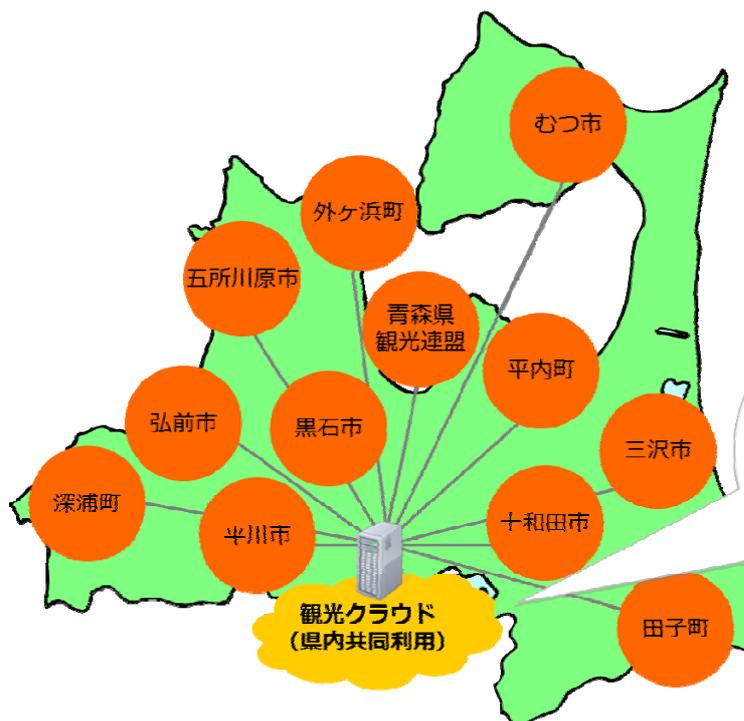
また、前述のオープンデータ（観光情報）は、地域の新たな観光情報拠点として地元レンタカー会社でも活用。スマートフォンで周遊ルート案内のできる先進のモバイル観光案内サービスを開発し、地元レンタカー会社を通じて旅行者へ提供しています。オープンデータを活用することで情報収集コストや維持負担が解消されるとともに、レンタカー利用者へ地元ならではの密な観光情報を提供しています。

このように青森県では公共団体の保有する観光情報をオープンデータとして活用することで、官民による様々な地域情報サービスが創出されています。

Web ルートガイドは青森県をはじめ全国12県（48団体）に展開されています。

【県内観光サイトで共同利用。県をあげて旅行者の周遊計画を支援】

車での周遊観光を支援



- ・車での最適ルートガイド提供。
- ・県内観光情報とルートガイドを共同利用。
- ・県内のどの観光サイトでも県内周遊ルートが計画できる。
- ・ルート周辺のスポットを発見したり、埋もれた観光資源の発見に。



- ・最適な観光ルートを表示
- ・移動時間と移動距離を自動計算
- ・移動ルート周辺のスポット案内

〔参照モデル〕

観光クラウドはH20年度総務省地域ICT利活用モデル構築事業（青森県五所川原市）での事業成果を参照し、当社で共同利用型サービスとして進化させたモデルです。

〔問い合わせ先〕

株式会社富士通システムズ・イースト 青森オフィス 米田（まいた）

Tel : 017-762-1053 e-mail : maita-t@jp.fujitsu.com

(地域情報発信の強化－４)

道路及び周辺情報配信システム (福島県西郷村)

〔概要〕

西郷村の安全、安心な地域作りの取り組みを推進し、その取り組みを内外にPRすることを目的として、道路及び周辺情報配信システムを整備し、その運営を実施する。

〔コラム〕

白河地方と会津地方を結ぶ甲子道路の開通に伴い、増加した交通事故を未然に防ぐため、国道289号線の高低差による道路状況の変化等の動画情報を、インターネット、携帯電話、デジタルサイネージを通して、国道利用者に提供している。

村関連施設である「キョロロン村」駐車場内には、大型ディスプレイを設置しドライバーの方や観光客の皆様へ情報提供を行っている。

(西郷村ホームページより)

<http://www.vill.nishigo.fukushima.jp/view.rbz?cd=1103>

The screenshot displays the Nishigo Village website in Microsoft Internet Explorer. The main content area features a map titled '西郷ライブカメラマップ' (Nishigo Live Camera Map). The map shows a network of roads connecting various locations: 下郷坑口 (Shimojōguchi), 下郷町 (Shimojō), 西郷坑口 (Nishigo-guchi), 新平子温泉 (Shinheira Onsen), ちやぼランド (Chyaboland), 西郷ダム (Nishigo Dam), 赤坂ダム (Akasaka Dam), 西郷村役場 (Nishigo Village Office), 新白河駅 (Shinshirai Station), and 新白河IC (Shinshirai IC). A legend in the bottom left corner identifies road types: 普通道路 (Ordinary Road), 国道 (National Road), and 県道 (Prefectural Road). The website header includes the village name '西郷村 Nishigo Village' and navigation links like 'トップページ', 'くらしのガイド', '観る・遊ぶ', '産業・ビジネス', and 'まちづくり'. A sidebar on the right lists various services such as '暮らしの便利帳' (Convenience), '福祉' (Welfare), '安全' (Safety), '生活環境' (Living Environment), and '行政' (Administration).



(問い合わせ先)

東日本電信電話株式会社 ビジネス&オフィス営業推進本部 公共営業部
TEL : 03-6803-9055

双方向告知通信システムを活用した地域情報の動画配信サービス (熊本県阿蘇市)

〔概要〕

阿蘇市には、地場産業の振興、人材育成、雇用創出を図る施設「阿蘇テレワークセンター」があり、地域情報の発信を行ない魅力あるまちづくりに役立っている。光ブロードバンドネットワークを整備し、動画も送れる告知通信システム「知らせますケン」を導入し、市民向けに「市役所からのお知らせ」の連絡と共に、地域のニュース等の動画を配信している。

〔コラム〕

双方向告知通信システム『知らせますケン』を利用し、市民向けに「市役所からの一般的なお知らせ」を配信すると共に、阿蘇テレワークセンターが有するインターネットテレビ放送局「WEB-TV アソ」が製作する地域情報番組の一部や、市長のインタビュー、地元で働くフレッシュマン等の動画を市民に配信しています。

配信された動画のタイトルが画面に表示され、そこをタッチすると番組を見ることができるので、高齢者にも使いやすいシステムです。今まではパソコンでしか見ることができなかった番組を各戸の告知端末に配信することで、より多くの市民にニュース、イベント、観光情報等の地域情報を届けられるようになりました。

また、告知端末を使って福祉に関する様々な情報提供を行う web ページ、「阿蘇あんしん福祉ネット」を作って端末から見られるようにしています。安否の確認、そうだん室、ふくしと健康等の六つのチャンネルがあり、好きなものが見られます。チャンネル毎に担当窓口へワンタッチでつながるテレビ電話ボタン付きで、高齢者の方のあんしんホットラインとなっています。

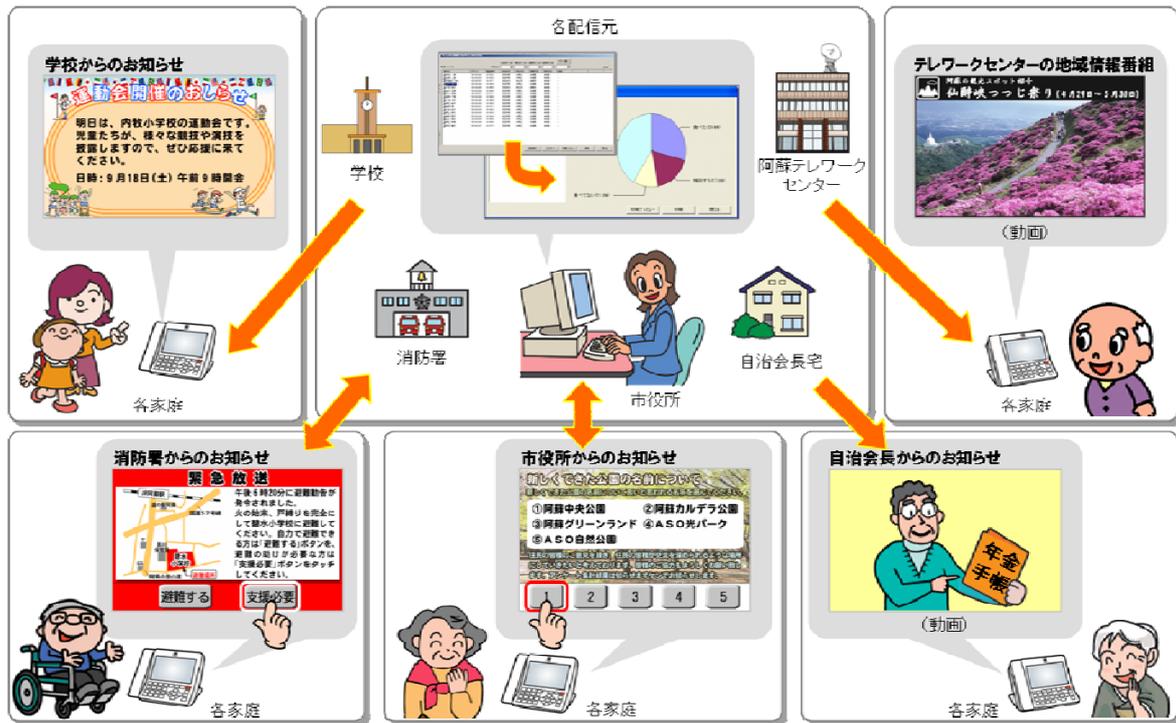


図1. 阿蘇市お知らせ配信イメージ



図2. 阿蘇あんしん福祉ネット画面

(問い合わせ先)

株式会社アイ・コミュニケーション

e-mail : nishiwaki@i-communication.co.jp

地域の埋もれたお店を浮上させる「ぷらなび@ami' z」
(株式会社富士通システムズ・イースト)
<http://pr.amiz.jp/>

〔概要〕

地域のお店などリテール事業者の情報化を推進するため、ケータイやスマホ（以下モバイル）で手軽に利用できる情報発信ツール（店舗紹介・BLOG 発信・お客様へのメール配信・お店の会員登録・電子クーポン・通販機能など）を地域共同利用型サービスとして提供。お店から発信された情報は、地域のお店情報ポータル（ぷらなび@ami' z）や、観光サイトや地域 SNS など複数の地域メディアに同時配信され、地域の埋もれたお店を浮上させます。

〔コラム〕

ICTの普及・進化により、通販など物販事業には大きな恩恵をもたらしましたが、飲食店など来店型の事業者の多くは、まだ紙媒体に依存しており、情報発信コストが割高となっています。

また、ケータイを活用した会員サービスによる顧客囲い込みなど、来店型事業者にはケータイの活用が有効ですが、小規模店舗で同様のサービスを構築するのは容易ではなく、情報発信力による格差が段差になりつつあります。

この課題に着目し、地域の小規模店舗の情報発信力を底上げするため、以下の情報サービスを構築しました。ここから発信された情報は地域 SNS や観光サイトなど様々な地域メディアと連動し、多角的に情報流通される地域の情報基盤としての位置づけにもなっています。

1. 地域メディアへお店情報を発信

地域住民が集う地域 SNS や、地域のお店情報ポータルサイトを開設し、これら地域メディアとの連動により、お店からの発信情報を地域住民へ届けます。

2. 店のリピータづくり

店頭にお店専用 QR コードを表記した POP 等を設置。来店客はケータイで、そのお店の優待会員として登録できます。お店の発信したオススメ情報はメール等で配信され、今日の入荷情報など、これまで来店しないと伝えることができなかった情報をお得意様にタイムリに発信できます。

3. 地域での共同利用型サービス

地域の共同利用型サービスにすることで、利用コストを抑制でき（基本無料、有料 OPTION は月額 2,625 円）、地域のお店の集合により露出機会の相乗効果も生まれます。また、地域の公共観光サイトなどとも連携し、旅行者に着地側のお店から生の声、旬な情報なども発信しています。



ケータイ1つで利用できる集客ツールを地域で共同利用

お店紹介 **オススメ** **クーポン**

〔制作費（うち公的な補助額）〕

H20年度 青森県新産業創造課 情報ビジネスモデル研究事業 補助額：150万円

〔運営費〕

参加店舗からの会費収入で民間運営（基本無料、有料サービス：月額2,625円）

〔問い合わせ先〕

株式会社富士通システムズ・イースト 青森オフィス 米田（まいた）

TEL：017-762-1053 e-mail：maita-t@jp.fujitsu.com

よかまち・きやんせ倶楽部

(薩摩川内市定住支援センター)

<http://www.city.satsumasendai.lg.jp/www/genre/00000000000000/1268816498923/index.html>

〔概要〕

薩摩川内よかまち・きやんせ倶楽部は、定住希望者の新規開拓と情報発信を主な業務とし、薩摩川内市のホームページからインターネットを介し、本市で取り組んでいる定住に関する重点施策（本市民が受けられる補助や定住の際に受けられる補助など）や仕事情報、住まい情報等、定住希望者のための充実した情報が提供されている。

〔コラム〕

1. 概要

薩摩川内市の人口は減少を続け、平成22年国勢調査では、99,589人となり、10万人を下回る結果となりました。そのため、市は「定住自立圏共生ビジョン」に基づいて定住促進を進め、平成27年においては102,000人以上の人口を目標値としています。主な事業の特徴として、転入誘導に特化した政策とし、転入者に対して助成事業を行っています。

2. 事業内容

定住自立圏共生ビジョンの中で、平成22年度から平成26年度までの5年とし、「都市部の定住希望者へ情報発信を行うとともに、宿泊体験や自然体験を通じて交流を促進し、移住の際の負担を少しでも軽減できる施策を展開することにより、本市へ住みたいと思うまちづくりを進め、定住促進を図る。」としています。

(事業の例)

- ・ 定住住宅取得補助
- ・ 定住住宅リフォーム補助
- ・ 新幹線通勤定期購入補助
- ・ ゴールド集落転入促進補助
- ・ 大都市圏で開催される移住セミナー等への出展（移住相談対応）
- ・ よかまち・きやんせ倶楽部通信の定期発行
- ・ メールマガジンの定期発行

事業の活用状況は、新幹線通勤定期購入補助と定住住宅取得補助は平成17年度から、定住住宅リフォーム補助は平成20年度から開始しており、今までに、定住住宅取得補助とリフォーム補助で521世帯（1,431名）【H25年6月末現在】が移住しています。新幹線通勤定期購入補助は446名【H25年6月末現在】の利用がありました。平成18年度から、ワンストップサービスの窓口（定住支援センター）を市役所に設置し、薩摩川内市に興味を持

っている方々に情報発信をしています。さらに、薩摩川内市の定住に関心を持っている方に、市からのお知らせや定住に役立つ情報を発信する、「薩摩川内よかまち・きやんせ倶楽部会員」を募集しており、現在、約 1,758 名が会員登録しています。また、薩摩川内市のホームページにおいて、定住促進関連情報を紹介しています。

(薩摩川内市定住支援センターのホームページより)

The screenshot shows the homepage of the Satsumakawanai City Permanent Residence Support Center Yokamachi Kiyanse Club. The header features the club's logo and name in Japanese and English, along with three scenic images of the region. Below the header is a navigation bar with a search function and text size options. A left sidebar contains a '総合メニュー' (General Menu) with icons for various services. The main content area has a breadcrumb trail and a highlighted section for '定住促進(よかまちきやんせ倶楽部)'. Below this is a large blue banner with a seagull illustration and the text '子供のころの風景が今もここに 있습니다' (The scenery of childhood is still here). At the bottom right, contact information is provided: '薩摩川内市定住支援のお問い合わせ' (Contact for Satsumakawanai City Permanent Residence Support), 'フリーダイヤル 0120-420-200' (Toll-free number 0120-420-200), and 'E-mail kiyanse@city.satsumasendai.lg.jp'.

(問い合わせ先)

薩摩川内市定住支援センター

TEL : 0120-420-200 e-mail : kiyanse@city.satsumasendai.lg.jp

奥出雲まめなかねット

(島根県 奥出雲町)

<http://mypage.okuizumo.ne.jp/>

〔概要〕

町民自らがホームページを作成し、町内外に向けて情報発信を行うサイト。ブログ感覚で誰にでも分かり易く、簡単にホームページの作成・更新ができ、お手軽に情報発信ができることが魅力。

〔コラム〕

奥出雲町では従来から町民向けブログサイトがあり、「奥出雲まめなかねット」はそのリニューアル版として平成20年11月20日から運用を開始しています。また、常時サポート窓口を開設し、本サイトの更新や記事作成時のトラブルについて相談を受けてつけています。この取り組みにより多くの皆様に本サイトをご利用いただいています。また、町内の小中学校がこれを利用して情報発信することにより、子どもたちの様子がわかるなど保護者などからも好評をいただいています。このほか、「サイトを見て、町外・県外から返信が来るようになり、いろいろな地域の人と楽しく情報交換している」、「紅葉の写真をサイトで公開したところ、紅葉の時期に町外・県外からの観光客がかなり増えた」、「観光地の状況についての電話での問合せに、補足資料としてサイトに掲載している写真を見てもらっている。観光客からは「参考になった」と喜ばれている」などの声も聞かれ、個人的な情報発信のみならず、地域の活性化にも一役買っています。

本町は高齢化率が高いので、高齢の方にも利用していただけるようなシステムにしないと住民へ浸透しません。そこで、本サイトを構築する際には、誰でも簡単に、直感的にページを作成・更新できるようなシンプルなシステムにすることを心がけました。その甲斐あってか、住民の皆様積極的にご活用いただき、平成25年10月時点で、サイト数は151件となっています。また、本サイトの運用開始から現在までに200万件以上のアクセスをいただいています。



【奥出雲まめなかねットのポータルサイト】

〔制作費（うち公的な補助額）〕

約2百万円（1百万円：島根県町村会）

（ただし、奥出雲町ホームページ制作費も含む。）

（問い合わせ先）

奥出雲町役場 総務課 危機管理情報G Tel : 0854-54-2505

奥出雲町情報通信協会 Tel : 0854-54-2525

竹田市農村回帰定住支援サイト
(大分県竹田市)
<http://www.city.taketa.oita.jp/nouson/>

〔概要〕

大分県竹田市への居住希望者に対して、農村回帰(竹田市への移住)に関する有用な情報を提供するシステム。過疎化の歯止め、地域の活性化を目的として、竹田市役所をはじめ、市内外の様々な団体等の協力も得ながら、インターネットを介して、より多くの情報提供を目指している。

〔コラム〕

竹田市は全国初の「農村回帰宣言市」を標榜するとともに、ふるさと回帰支援センターと相互協力協定を締結し、平成22年6月に設立された「竹田市農村回帰支援センター」を軸に、竹田市への移住を推進する事業を展開しています。そのなかでも、「竹田市空き家バンク」事業への利用登録者数は年々増加傾向にあり、平成23年11月末現在では約360世帯が登録されています。利用希望者ニーズをよりの確に把握することに努め、物件情報をお知らせすることはもちろん、竹田市を肌で感じていただき、物件を実際にみていただけるよう、現地案内も行っています。このような取り組みの成果から、これまで成約件数55件(定住者129名)となっています。

また、空き家バンク以外にも、「集落支援員制度」の導入により移住者へのアフターケアをより充実させ、「子育て定住促進住宅」の建設により子育て世帯が移住しやすい環境をつくるとともに、各種助成事業により移住のお手伝いをさせていただいています。移住して来られた方には、「竹田市に住んで良かった。」と実感していただけるように、また、地域の人が「この人たちが住んでくれて良かった。」と思えるように、これからも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

〔サイト制作費〕

●約40万円

(問い合わせ先)

竹田市 企画情報課 農村回帰推進室

TEL : 0974-63-4801 e-mail : nousonkaiki@city.taketa.lg.jp



(竹田市農村回帰定住支援サイトのホームページより)

みんなで作る情報板 わかやまイベントボード
(NPO法人 市民のわかやま)
<http://eventboard.shiminjuku.jp/>
<http://eventboard.shiminjuku.jp/m/> (携帯サイト)

〔概要〕

和歌山県内のイベントを検索できるサイト。特徴は、個人、団体、公共施設などが主催するイベント情報を自ら入力し、PRできるという手作り感溢れる情報発信ツールです。

〔コラム〕

本サイトは、平成17年度に実施した和歌山県事業「わかやま情報発信プラットフォーム構築モデル事業」の成果をもとに運営しています。同事業は、自分たちの活動をPRできない市民団体やNPO等が容易に情報発信できる仕組みを作り、それにより「地域コミュニティの再生」や「地域活性化」の可能性を探ることを目的として、「みんなでつくる情報板 わかやまイベントボード」を構築し、その有効性を検証するというものでした。平成17年10月末～2月中旬の期間サイトを開設し、検証を実施したところ、アクセス数9,390件、イベント数979件、参加団体数118団体という結果が得られ、その有効性が実証されました。

平成25年10月現在では、600万件を超えるアクセス数、5万3千件を超えるイベント数と、630団体を超える参加団体数で県内最大級のイベント情報掲載サイトに成長しました。また、本サイトを介して様々な交流が広がるなど、コミュニケーションの場としても活躍しています。また、わかやまイベントボードは、総務省近畿総合通信局、近畿情報通信協議会との共催による「関西ウェブサイト大賞 2009」において、「関西ウェブサイト大賞優秀賞」を受賞しました。

現在のアクセス者総数 6,020,101 人 イベント登録数 53,331 件 主催者登録数 635 件 [RSS](#) 2

●本日開催のイベント(2013年10月11日 金曜日)

イベント名	主催者
第80回記念市美術展覧会	田辺市と市教育委員会
きよかわ市	げんき工房きよかわ村
大人の社会見学(筑島漁港見学)	有田市産業振興課
再織体験	パイル織物資料館
受戒	総本山金剛峯寺 法会部 法会課
橋本市で【特別行政相談所】を開催します！	総務省 和歌山行政評価事務所
ペーパーマッサー教室 (岩出市・ミルフェルム)	ペーパーマッサーズスクール ピュアママ
落語ワークショップ	わかやま楽落会
落語ワークショップ、こども落語ワークショップ相談	わかやま楽落会
子育てひろば	子育て支援課
NPO助成金講座 申請書書き方のコツ教えます	和歌山県NPOサポートセンター
「消費税が上がる」と年金をもらえる人が増える！？ ☆なっとく塾☆	株式会社アドバンス・コミュニケーションズ
歴史かふぇ おーぶん	和歌山市、和歌山大学地域連携推進協議会

(わかやまイベントボードホームページより)

〔制作費 (※和歌山県からの実証実験委託により構築)〕
約90万円 (※実証実験関連費用及び報告書作成費用込)

(問い合わせ先)

NPO法人 市民のわかやま
TEL : 073-428-2688 e-mail : eventboard@wakayama.shiminjuku.jp

屋久島町だいき基金

(鹿児島県屋久島町)

<http://www.yakushima-town.jp/>

〔概要〕

世界自然遺産に登録されている屋久島は、世界中から年間40万人の入込み客が訪れる人気の観光スポットとなっている。観光客の増加に伴い、ごみ処理やし尿の問題等により、将来にわたって自然環境を維持していくためには大きな課題を抱えている。そこで、環境保全や地域の活性化に限った善意の寄附金を集めるため、インターネットを介して寄附を呼びかけている。

〔コラム〕

屋久島で生まれ育ち、東京や大阪などの大都市で生活をされている方々、仕事や観光などで一時期でも屋久島に関わりを持たれた方々など、屋久島を「ふるさと」と思ってくださいの方々と「ふるさと」に「貢献したい」「応援したい」と思ってくださいの方々の思いをお寄せいただきたいということから屋久島町では、平成20年3月に「屋久島町だいき寄附条例」を制定しました。その思いに応えるべく、寄附金の使途は、環境保全対策事業と地域の活性化事業に絞ったところです。

屋久島が1993年に世界自然遺産に登録され、その後、大都市でも屋久島に関するテレビ放映などが頻繁に行われるようになり、特に環境保全に対する関心が高まっていることから、これらの取組みについての情報発信を含め、本町のホームページにも各種情報を掲載しており、その中で「屋久島だいき寄附条例」に関する内容も紹介しています。雇用問題や燃料価格の高騰など、急激に経済情勢が悪化し、大都市で生活されている方々もたいへんな年の瀬を迎えていることを思えば、寄附をお寄せいただいた方々には心から感謝を申し上げる次第です。平成20年4月1日から現在までの期間ではありますが、多くの方から総額**9,204,354**円の善意が届けられました。

今後、「ふるさと納税」制度が更に浸透していくことや屋久島町ホームページへのアクセス件数が増えることとあわせて、来年以降多くの善意の申し出があることを期待しているところです。

屋久島町「だいき基金」のご案内

屋久島は、平成19年10月に二つの町が合併し、「屋久島町」として新たな歩みをはじめました。合併作業の過程で策定された「新町まちづくり基本計画」は、住民委員会において度重なるワークショップを行い、屋久島のあるべき将来像を定めたものです。

基本理念は、『悠久の流れの中で、自然と共に生きる知恵と多様な集落の文化がとけあい、人々の営みが循環・持続していくまち』を目指すこととしています。

その考え方は、次のとおりです。屋久島には、奥深い山の自然、生活の背景となる森や山、そこから流れ出る川、清らかな水、表情豊かな海、その中で育まれてきた農業、漁業、林業、それらを支えとして培われてきた集落固有の祭りや郷土芸能、神社・仏閣などの歴史・文化、それらに根ざした暮らしぶり、集落の営みがあります。

また、まともな強固な集落コミュニティ、集落ごとの自立・自治の精神など個性的で多様な特性をもっています。この個性的な多様性がそれが屋久島の価値といえます。

これからは、悠久の流れという果てなく長くつづく時間の中で、脈々と息づいてきた島の生い立ちや歴史を振り返り、先人たちが培ってきた自然と共に生きる暮らしぶりやこころのやさしさ、思いやり、強さをもう一度掘り起こし、新たな価値を創造するとともに、集落固有の多様な歴史・文化を受け継ぎながら、これらの多様性を語り合い、認め合い、とけあわせの中で、島に暮らす人々の営みを未来永劫絶やすことなく循環・持続させていくということを「まちづくりの基本理念」とします。

そして、「住民・集落」と「行政」が「まちづくりの基本理念」を共有しながら、「対話」と「協働」により、それぞれの役割・責任を分担しあう『屋久島スタイル』のまちづくり形態を創りあげ、新しいまちの姿(将来ビジョン)を実現させていきます。

このような町づくりを進めていくうえで、「環境保全」と「地域の活力づくり」のための財源に限定した寄附を募り、皆様と共にまちづくりを進めていくことを目的に、屋久島町だいき寄附条例を制定し、「屋久島町だいき基金」を設置しました。

ふるさとへの熱い思いをお持ちの屋久島出身の皆様、屋久島ファンの皆様のあたたかいお気持ちをお待ちしております。

平成23年11月11日

屋久島町長 荒木 耕治

(屋久島町のホームページより)

(問い合わせ先)

屋久島町 総務課 屋久島町だいき基金 係

TEL : 0997-43-5900 e-mail : soumu@yakushima-town.jp

新潟県のブロードバンドポータルサイト
『新潟ふるさと情報局』
(新潟県IT&ITS推進協議会)

〔概要〕

新潟県 IT&ITS 推進協議会*1 では、新潟県のブロードバンドポータルサイト『新潟ふるさと情報局*2』を運営し、県内のブロードバンドコンテンツを配信しています。

本サイトでは、映像配信等による新潟県の紹介を行い、ブロードバンドに対する認知度の向上に寄与しています。

*1 県内の地域情報化を推進する産学官連携組織

*2 『新潟ふるさと情報局』 <http://navi.n-it-its.jp/>

〔コラム〕

新潟県 IT&ITS 推進協議会では、ブロードバンドに対する県民の理解と関心を深めることを目的に、平成 18 年 1 月から地域画像情報提供事業として県内の地域情報を発信しています。

本サイトでは、県内の自然・観光・文化等の映像や道路・地域情報カメラのライブ画像を配信しており、週末や冬期間などを中心に多くの方からご覧いただいています。

平成 25 年度はカメラライブ画像トップ画面を見やすく改修し、また、県内の公衆無線 LAN スポットのマップに宿泊施設客室のスポット情報を追加することで、県民や来訪者の利便性向上と公衆無線 LAN スポットの整備促進を図っています。

今後もニーズに応じたコンテンツの発掘を行い、より多くの方にご覧いただけるよう、サイトの充実をしたいと考えています。

[事業費(※協議会会員の会費及び負担金より支出)]

平成 25 年度予算 150 万円(※サイト運営管理・改修委託費用込)



(問い合わせ先)

新潟県 IT&ITS 推進協議会 事務局 (新潟県総務管理部情報政策課)

Tel:025-280-5106 e-mail:ngt010090@pref.niigata.lg.jp